

建築文化奨励賞

高齢者・障害者等に配慮した建築物

丸山町保健福祉センター

丸山町保健福祉センター愛称（ほのぼの）は、その名の通り「ヒューマンスケールの細い柱」で優しさをかもしだし、ガラスを多く使った採光に工夫が凝らされている。

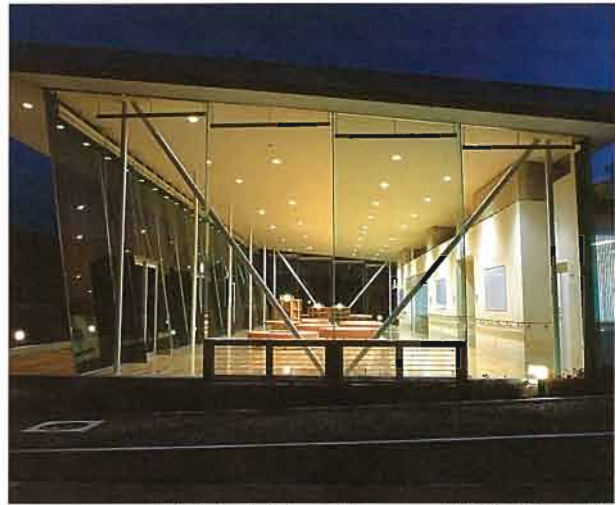
利用する人々が、優しさ・明るさ・暖かみを思い切り感受できる、この施設はそんな思いを随所に大胆に表現している。

アプローチのスロープ化、ファミリートイレの工夫、陽光と開放感の調和をベースとした機能回復訓練室等、町民の福祉ニーズの要請を環境への配慮とバリアフリーで示している。健康で安心して暮らせる施設としての保健機能・福祉機能・検診機能・事務機能等の無駄を省いた配置がされたこの建築物は、経済的かつ効率的な課題を行政・建築関係者・利用者が参画して完成させたものと思われる。

隣接施設の接続と併せ、将来的には利用者増につながる相乗効果が期待される。地域ぐるみの健康づくり機能として位置づけたとき、この建築物だけで全てとはいえないが、将来に向けた福祉施設の新し

建築主：丸山町
設計：(株)環都市・建築計画事務所
施工：渡辺建設株式会社

所在地：安房郡丸山町珠師ヶ谷1289-13



側面全景（ホール）（撮影：庄司正）

い提案が感じられる。

心と心の和を大切にすることを念頭とした機能と技術は、建築文化奨励賞にふさわしいものである。

(神林保夫)

高齢者・障害者等に配慮した建築物

江戸川台西自治会館

江戸川台地域は開発時期が古く成熟度が増している。高齢化率も高くなっているが、安住の地と定め、さらには地域活動の核として共有の資産を造りあげた住民の意気込みが感じられる集会場である。

会館は公園内に位置するが住宅地の中央でもあり、近隣住民のプライバシーに配慮した配置がされている。外観も周辺との調和が図られ、スロープの入口から内部にかけてはバリアフリーの建築空間を提案している。

限られた建築面積のなかで玄関ホールと階段室を利用した吹抜けが設けられたが、より広く空間を造りあげようとする苦勞が感じられる。和室と集会所は単独でも共用でも使用でき、健常者と障害者等の区別なく年代をこえた活用がしやすい造りである。

車椅子の利用を考えたアプローチや1階のフラットの床、バリアフリーの便所等は当然のこととも思われる。しかし利用する人々に住宅への適用を促し、応用の可能性を示したことには一つの意味がある。ただ、各室ドアはより快適に使える方法を考えたい。

建築主：江戸川台西自治会
設計：夏目設計事務所
施工：大澤建設株式会社

所在地：流山市江戸川台西2丁目241



公園越しの全景（撮影：夏目勝也）

また厨房設備の高さは車椅子利用者には不便と感じられ、あと一步の工夫を望むところもある。

(周郷紀男)